

とは言えない。特定はできないにせよ、このグレイという人物が強烈な個性の持ち主であったことは、疑いないだろう。旧外語露語科のこうした知的雰囲気を筆者はナロードニキ精神（当時の言い方では虚無気質）と呼びたいのである。そうであればこそ、生徒のなかから、村松愛蔵のような民権家や嵯峨の屋、高須治助（プーシキンの「大尉の娘」の訳者）さらには異才のジャーナリスト、小説家として時代を先取りするグルメ本や予言の書を数多く発表した村井寛（弦斎）のような文学者が出てきたのであろう。

四 日本人教師陣とカリキュラム

日本人スタッフの顔ぶれ

外国人教師の記述が長くなりすぎたので、ここで日本人教師の顔ぶれを紹介しておこう。市川が抜けた後、柳田二郎と大前退蔵の名前が一八七四（明治七）年の「官員並生徒一覽」に記されている。柳田がどのような人物か定かでないが、遣魯留學生の田中次郎ではないかと推定される。また大前は二代目ウラジオストック貿易事務官、臨時代理公使をつとめる人物である。しかし教師として長く教鞭をとった形跡はなく、一八七六年七月には、かつての加賀藩遣魯留學生の嵯峨寿安が、わずか一年間教鞭をとっている。この嵯峨は謎の多い人物だが、自分の意志でシベリアを横断した（それも単身、徒歩で）最初の日本人であり、帰国後文部卿木戸の斡旋で開拓使御用掛、函館魯学校教師を経て外語に着任、一八七七年一月の校長内村良蔵による教育課程の変更を不服として退職している。

そしてこの頃文部省から露和辞典編纂の辞令が出されるのだが、これは次の主任教諭古川常一郎（在職期間一八七九—一八八五年）、市川文吉（一八七九—一八八五年、外務省出仕）等の手で一八八七（明治二十）年に「露和字彙」として



【露和字彙】

出版される。上下巻合わせて二、八七八ページの大冊で、語彙数は十数万語というから、当時としては画期的な辞書である。ただし外語の図書館には一セットしかなかったため、生徒は先を争ってこれを借り出したという。ついでながら、今出た古川、市川、長谷川（二葉亭）の三人は明治時代の「ロシア語の三川（せん）」と称せられたことも言い添えておこう。

また生徒のなかで優秀な人材は卒業をまたずに助教、あるいは助訓として抜擢され、教育に当たった。近藤義文（一八七九年のみ）、藤堂紫郎（四郎とも。一八七九―一八五年）、相原七郎（一八七九―一八二年）、黒野義文（一八八二―一八五年）がその例である。以上が旧外語露語科の教員スタッフとなる。

露語学科のカリキュラム

それでは旧外語では、そのような教師によってどのような授業がなされていたのであろうか。その前にこの学校では外国の中等学校レベルの授業がすべて当該外国語でなされていたことを知っておかねばならない。「教師は大抵外国人で然

し日本人もあつた、教科書は全部原書で訳読の時間は日本人の教師が通訳せられた」(前掲安藤「回顧談」)との証言もある。「東京外国語学校一覽」には、一八八〇—一八一(明治十三—十四)年の露語科の詳しいカリキュラムが教科書、参考書も含めて明記されているので、煩瑣になるが紹介しておく。学習用語、文法用語が今日とは異なっており、その意味でも資料編に回すのは惜しいからである。

第一年第一期 下等第六級

綴字 トルストイ氏ノ以呂波ニ就テ以呂波及単語ノ綴字法ヲ授ク

(週五時間)

読法 読本ニ就キ発音ノ法ヲ授ク(教科書パウリソン氏読書篇)

(同五時間)

習字 運筆法及大小字ノ快走体ヲ習ハシム

(同四時間)

訳文 パウリソン氏読書篇

(同四時間)

算術 数目命位、加法、減法(教科書マリニン及ブレニン両氏算術階梯)

(同六時間)

国書 読書力ヲ酌量シ輪講、講読或ハ属文セシム(教科書史記、網鑑易知録、明鑑易知録、論語、小学、文章軌範、日本外

史)

(同三時間)

体操 亞鈴棍棒演習

(同三時間)

第一年第二期 下等第五級

綴字 トルストイ氏ノ以呂波ニ就テ単語単句ノ綴字ヲ練習セシム

(週二時間)

読法 音声ノ高低ヲ明ニセシム(教科書ペレウレススキー氏読書入門)

(同四時間)

習字 大小字ノ快走体(教科書グラウインスキー氏習字帖)

(同三時間)

書取 簡単ノ文章ヲ書取ラシム

(同二時間)

文法 総論、実名辞、形容辞(教科書イワノフ氏露文典)

(同三時間)

暗唱 単語日用ノ話語ヲ授ケ之ヲ暗記セシム

(同二時間)

四 日本人教師陣とカリキュラム

訳文 パウリソン氏読書篇ニ就キ其文意ノ訳ヲ授ク

算術 乗法、除法、四則雜題、括弧用法 (教科書マリニン及ブレニン両氏算術階梯)

国書 前級二同シ

体操 前級二同シ

参考書 マリニン及ブレニン両氏算術問題集

第二年第一期 下等第四級

読法 流読ヲ学ハシム (教科書ベレウレススキー氏読書入門)

習字 前級二同シ (教科書ラグーゼン氏習字帖)

書取 前級二同シ

文法 形容辭、數辭、代名辭 (教科書イワーノフ氏露文典)

暗唱 小説中ノ撰文ヲ授ケ之ヲ暗記セシム (教科書クルイロフ氏小説書)

会話 日用ノ談話並ニ其訳ヲ授ク (教科書アガービーゴンチャレンコ氏露英会話)

訳文 ウシンスキー氏小兒世界第一篇ニ就テ其文意ノ訳ヲ授ケ及イロワイスキー氏ノ古代史ヲ講読セシム

算術 諸等數、通法、命法、諸等加法、諸等減法、諸等乘法、諸等除法、因數、最大公除數、最大公倍數 (教科書マリニン及ブレニン両氏算術階梯)

地理 地球、地球運行、地面想像圈、兩半球、兩極、平面球、地図、経緯線、日月星、地球内部、地皮、水陸分別及外形、

陸面形状、海底及海水、大氣、満潮及干潮、洋流、風、陸水、氣候、植物、動物、人民 (教科書スミルノフ氏地理總

論)

国書 前級二同シ

体操 前級二同シ

参考書 コルネット氏露英会話指南、プロムメ氏博物圖書、マリニン及ブレニン両氏算術問題集、リヨウエ氏算術階梯、ア

ントノフ氏露文典、イリイン氏万国地圖書

(同三時間)

(同五時間)

(同三時間)

(同三時間)

(週三時間)

(同二時間)

(同二時間)

(同三時間)

(同二時間)

(同二時間)

(同五時間)

(同二時間)

(同二時間)

(同三時間)

(同三時間)

(同三時間)

第二年第二期

下等第三級

読法 前級ニ同シ (教科書ウシンスキー氏小兒世界第二篇)

(週二時間)

習字 前級ニ同シ (教科書ラグーゼン氏習字帖)

(同一時間)

書取 前級ニ同シ

(同一時間)

文法 動辭 (教科書イワーノフ氏露文典)

(同一時間)

暗唱 前級ニ同シ

(同一時間)

会话 前級ニ同シ (教科書コルネット氏露英会话指南)

(同一時間)

作文 簡易ノ文ヲ作ラシム

(同一時間)

訳文 前級ニ同シ

(同一時間)

算術 分数、通分法、命分法、約分法、通分母法、通分子法、分数諸等通法、分数諸等命法、加分法、減分法、乘分法、除

(同一時間)

分法 (教科書マリニン及ブレニン両氏算術階梯)

(同一時間)

地理 歐羅巴ノ境界及幅員、地勢、山、低地、氣候、植物、動物、河湖、人口、宗教、生業、産物、政体、教化、府県、都

(同一時間)

府 (教科書スミルノフ氏歐羅巴地誌)

(同一時間)

歴史 上古ノ史 (自開闢至馬基頓史) 元始ノ人類、建国、上古亞細亞、亞弗利加ノ人類、及其国史、太古ノ希臘、希臘ノ諸

(同一時間)

国及殖民、波斯トノ戦争、希臘ノ開化、伯羅奔尼撒ノ戦乱、希臘国ノ衰滅、馬斯多尼ノ史 (教科書ベルテー氏万国史

(同一時間)

略)

(同一時間)

国書 前級ニ同シ

(同一時間)

体操 前級ニ同シ

(同一時間)

参考書 アントノフ氏露文典、ペリヤーエフスキー氏露文典、プロムメ氏博物圖書、マリニン及ブレニン両氏算術問題集、

リヨウエ氏算術階梯、モストフスキー氏歐羅巴地誌、ヲボトフスキー氏万国地誌、イリイン氏万国地圖書、ドブリ

ヤコフ氏古史圖本、ヨルダン氏歴代沿革圖本、イロワイスキー氏上古史

第三年第一期

下等第二級

第三年第一期

下等第二級

第三年第一期

下等第二級

四 日本人教師陣とカリキュラム

- 読法 前級二同シ(教科書小児世界第二篇)
 習字 前級二同シ
 書取 撰文ヲ口述シテ書取ラシム
 文法 副辞、前置辞、連統辞、間投辞及品詞分類(教科書イワーノフ氏露文典)
 暗唱 名家ノ著書撰文及ヒ其他ノ小説等
 会話 日用緊要ナル話語ヲ練習セシム
 作文 簡易ノ記事及ヒ尺牘ヲ作ラシム
 訳文 ウシンスキー氏小児世界第二篇ニ就テ其文意ノ訳ヲ授ケ及シユリギン氏中世史ヲ講説セシム
 算術 小数、小数加減法、小数乘法、小数除法、小数化法、有究無究分数、単混循環小数、連分数連分数化法(教科書マリ
 ニン及ブレニン両氏算術階梯)
 地理 歐羅巴ノ統及亜細亞ノ境界、幅員、地勢、山、低地、氣候、植物、動物、河湖、人口、宗教、生業、産物、政体、教
 化、府県、都府(教科書スミルノフ氏歐羅巴地誌、スミルノフ氏四大洲地誌)
 歴史 上古史ノ統(自羅馬ノ建国至基督教弘衍ノ時)羅馬、国王政治ノ時巴的黎支ト布列丕トノ排撃、羅馬国威ノ振興、風
 俗ノ変易、羅馬共和政治ノ衰微、羅馬帝國羅馬国ノ状況、羅馬ノ開化(教科書ベルテー氏万国史略)
 国書 前級二同シ
 体操 前級二同シ
 参考書 パシーストフ氏露語教授文選、アントノフ氏露文典、ベリヤーエフスキー氏露文典、マリニン及ブレニン両氏算術
 問題集、リヨウエ氏算術階梯、モストフスキー氏歐羅巴地誌、モストフスキー氏万国地誌、ヲボドフスキー氏万国
 地誌、イリイン氏万国地図書、ヨルダン氏歴代沿革図本、ドブリヤコフ氏古史図本、イロワイスキー氏上古史、シ
 ロスセル氏万国史
 第三年第二期 下等第一級
 読法 パシーストフ氏露語教授文選ニ就キ読法ヲ練習セシム
 (週二時間)

習字	前級二同シ	(同一時間)
書取	選文ヲ口述シ之ヲ書取ラシメ句読及段落ヲ切ルノ法ヲ知ラシム	(同一時間)
文法	作語法、章句、格語、合語法、管語法、用格法、置語法句読用法及正記法ヲ授ケ撰文ノ分析ヲ学ハシム	(教科書イワ 一ノフ氏露文典)
暗唱	前級二同シ	(同一時間)
会话	前級二同シ	(同一時間)
作文	前級二同シ	(同一時間)
訳文	前級二同シ	(同一時間)
算術	比及比例、三率規則、単率規則、合率規則、歩割規則、折減算法、鎖法、比例除法和較比例(教科書マリニン及ブレ ニン兩氏算術階梯)	(同一時間)
地理	亞弗利加、亞米利加、濠斯太刺里亞ノ境界及幅員、地勢、山、低地、氣候、植物、動物、河湖、人口、宗教、生業、 産物、政体、教化、府県、都府(教科書スミルノフ氏四大洲地誌)	(同一時間)
歴史	中古ノ史(自国民大遷移ノ時至十字軍ノ末) 国民ノ大遷移、西羅馬ノ滅亡、加爾利人、日耳曼人、日耳曼人創建ノ諸 國、希臘帝國、亞刺伯、加露冷家ノ時代 國帝ト教主トノ争乱、戟爾弗党及騎伯爾倫党、十字軍(教科書イロワイスキ 一氏中古史)	(同一時間)
国書	前級二同シ	(同一時間)
体操	前級二同シ	(同一時間)
参考書	アントノフ氏露文典、ベレウレススキー氏実地文典、ガルソフ氏露語、作語法、ベリヤエフスキー氏露文典、マ リニン及ブレニン兩氏算術問題集、リヨウエ氏算術階梯、イワニツキー氏算術問題集、イリイン氏万国地圖書、マ ボドフスキー氏万国地誌、モストフスキー氏万国地誌、ヨルダン氏歴代沿革図本、シロスセル氏万国史	
第四年第一期	上等第四級	
書取	選文ヲ口述シ速写法ヲ学バシム	(週一時間)

- 詞格 作文論(教科書ペレウレススキー氏実地文典) (同二時間)
- 暗唱 名家ノ詩文 (同二時間)
- 作文 叙文及記文等ヲ学ハシメ並ニ論文ヲ作ラシム (同二時間)
- 訳文 シュリギン氏新世史ニ就テ其ノ訳ヲ授ケ及之ヲ講ゼシム (同二時間)
- 算術 諸比例復習、算術雜題(教科書マリニン及ブレニン両氏算術階梯) (同二時間)
- 地理 露西亜ノ境界、幅員、山、河湖、氣候、植物、人口、宗教、州県、都府、地文学ノ総論、金石、陸地、島嶼、山谷、高原、平野、火山、地震、温泉、洋海、深淺海水色質及温度、洋動、潮洋流、波浪、泉河湖沼沢、露霜霧雲雨雪霰 (同二時間)
- (教科書レベデフ氏露國地誌、ベツヘル氏天地学)
- 歴史 中古史ノ統、中世第二半期ノ仏蘭西及英吉利、発布斯堡時世ノ日耳曼、意大利、斯于的那維諸國、西方薩拉瓦人、東羅馬ノ滅亡中世ノ状況(教科書イロワイスキー氏中古史) (同三時間)
- 物理 普通性、動、力、槓杆、引力、物体墜落法、分子引力、静水、滴流体ノ平準、被沈体、比重、驗液器(教科書パウリソン氏物理初歩) (同二時間)
- 代数 代数基原、四則、分数、関係、比例(教科書ダウイドフ氏初等代数) (同二時間)
- 幾何学 総論、平面ノ部、直線論、角論、形積平行線、比例線、設題(教科書ダウイドフ氏諸等幾何) (同二時間)
- 国書 前級二同シ (同三時間)
- 体操 前級二同シ (同三時間)
- 参考書 マリニン及ブレニン両氏算術問題集、リヨウエ氏算術階梯、文部省出版算術問題集、ヨルダン氏歴代沿革図本、シロスセル氏万国史、ガノー氏普通物理学、グラエーウイチ氏物理学、パウリソン氏物理教授本、イリイン氏万国地圖書、ヲボドフスキー氏万国地誌
- 第四年第二期 上等第三級
- 書取 前級二同シ (週一時間)
- 詞格 章句論、字論、比喩、詞格ノ普通及特異品格論(教科書ペレウレススキー氏実地文典) (同二時間)

演説 所思所感ヲ正ク論シ並テ弁論ノ法ヲ授ク

(同二時間)

作文 前級二同シ

(同二時間)

訳文 ヲフシヤニコフ氏史記文粹ニ就キ文意ノ訳ヲ授ケ及ロレンツ氏今世史ヲ講セシム

(同五時間)

記簿法 単式(教科書スノーポフ氏単復記簿階梯)

(同二時間)

地理 地文学ノ続、大気、温、風、氣候、視象、電象、地球ノ構成、天文学、地平、太陽一昼夜ノ視運、太陽一年ノ視運、

星天、太陰、恒星、遊星、地球の球形、地星、地球一昼夜ノ運動、地球一年ノ運動、月星、太陽、太陽系(教科書ベツヘル氏天文学)

(同二時間)

歴史 新世ノ史大発明及大発見意大利ノ戦争、學術ノ再興日耳曼ノ宗教改革加特力ノ反動西班牙呢特爾蘭仏蘭西ニテ加特力

教及君權ノ凱捷テュードル家及去阿爾家時代ノ英吉利斯干的那維諸國、普魯士、波蘭土耳其三十年ノ戦乱(教科書イロハスキー氏新世史)

(同二時間)

物理 気性、晴雨針、雰困気圧力ノ作用、気性ニ基ク諸器、脚筒、軽気球、音論、楽音、弦線ノ振動、発音管、熱論、温線

ノ放射及反射、物体導温性、物体ノ膨張及変化(教科書ガノー氏普通物理学)

(同二時間)

代数 一次方程式、一元二次方程式ノ組成法、二元方程式多元方程式、多元方程式ノ組成一次方程式ノ探究、次法解、根数、

有奇零數量、開平、開立(教科書ダウイドフ氏初等代数)

(同二時間)

幾何学 平面、正多角形、円内円外ノ切形、並行四辺形ノ測量、撮写法(教科書ダウイドフ氏初等幾何学)

国書 前級二同シ

(同三時間)

体操 前級二同シ

参考書 ヨルダン氏歴代沿革図本、シロスセル氏万国史、フォンデルセー氏単復記簿階梯、マリニン及ブレニン両氏天文学

階梯、ズーエフ氏普通地文学、ガノー氏物理全科、グラエウイチ氏物理学、フランボーリー氏物理問題、クラエウイチ氏代数問題集、イワーノフ氏代数問題、リヨウエ氏初等代数、ブツエウイチ氏幾何問題集、モズゴフ氏幾何問題集

第五年第一期 上等第二級 (週三時間)

修辭 散文ノ定法、詩学ノ定法、詩歌論(教科書フィローノフ氏露国文章軌範)

(週三時間)

演説 前級二同シ

作文 前級二同シ

論理 論理学ノ積義、切要及區別、思考基律ノ訓、想像及觀念ノ訓、弁決ノ訓、觀念ノ積義及分別ノ訓 (教科書スツルウ

エ氏論理階梯)

訳文 (教科書ボークリ氏英国文明史及ロレンツ氏最新世史)

記簿法 複式 (教科書スノーポフ氏単復記簿階梯)

歴史 新世史ノ統 路易第十四ノ時世、第十八世期西南欧州ノ諸国、英吉利、北米合衆国第十八世期ノ日耳曼、第十八世期

欧州東北ノ諸国、仏蘭西革命第一、仏蘭西皇帝政治ノ時、最新世ノ略記 (教科書イロワイスキ氏新世史)

(同一時間)

代数 ニュートン氏ノ二項數量法、二次方程式決、二次方程式ノ探究、二次ニ化スヘキ方程式、多元二次方程式、空量、不等

記号、不定方程式、設題 (教科書ダウイドフ氏初等代数)

(同一時間)

物理 蒸氣論、蒸氣機関、湿氣論、温熱ノ為メ発スル氣象、光論、光線ノ反射、平鏡、曲鏡、光線ノ屈折、虹鏡、透鏡、日

光分析、視学諸器、視覚 (教科書ガノー氏普通物理)

(同一時間)

幾何 円界ノ量法、円積量法、設題 (教科書ダウイドフ氏初等幾何)

(同一時間)

国書 前級二同シ

(同一時間)

体操 前級二同シ

(同一時間)

参考書 ヨルダン氏歴代沿革図本、シロスセル氏万国史、ミルリ氏論理原礎、スウエチリン氏論理階梯、フォンデルゼー氏

單復記簿階梯、クラエウイチ氏代数問題集、イワノフ氏代数決題、リヨウエ氏初等代数、ガノー氏物理全科、ク

ラエーウイチ氏物理学、フランボリー氏物理問題、プツエーウイチ氏幾何問題集、モズゴフ氏幾何決題、マリニン

氏幾何階梯

第五年第二期

上等第一級

修辭 文学史

(週三時間)

演説 前級二同シ

作文 論文其他雅致ノ文章等

論理 定理法ノ釈義、組織及編成、演繹、帰納、証明、序法（教科書スツルーエ氏論理階梯）

訳文 ボークリ氏英国文明史及ジヨゼフガルニエー氏經濟書

記簿法 前級ノ統キ

歴史

露國ノ史侯民兩政ノ阿羅思（第一、東歐羅巴及阿羅思ノ始第二、侯民兩治制ノ開狀第三、蒙古ノ压制第四、侯民兩治

阿羅思ノ内況第五、利德華管轄ノ西南阿羅思第六、東北ノ阿羅思莫斯科ニ伏従ス）莫斯科及利德華ノ阿羅思（第一、

東北阿羅思ニテ侯民制ノ廢滅及莫斯科國ニテ君權ノ振起第二、乱時第三、十六世期及十七世期ノ西方阿羅思第四、ロ

マーノフ家ヨリ出タル三帝ノ時代莫斯科國ノ内狀）露西亞帝國（第一、彼得大帝ノ世即國家改革ノ期第二、彼得大帝

ノ三後嗣第三、十八世期ノ露西亞ノ開化第四、國家一統及政略ノ堅強第五、十九世期第一半期露西亞開化ノ論）（教

科書イロワイスキー氏露國史）

物理

磁氣、電氣、交感電発、電氣器、電氣試験、聚電器、電氣ノ作用、空中電氣、氣象、瓦爾華尼電氣、電氣循環、電磁

作用、電氣流動論、電磁石、引起力ノ循環（教科書ガノー氏普通物理）

代数

算術連級、數幾何連級數、對數、對數表ノ組成及其法、重利、重還、算法設題（教科書ダウイドフ氏初等代数）

幾何

立体ノ部（教科書ダウイドフ氏初等幾何）

國書

前級二同シ

体操

前級二同シ

参考書

ミルリ氏論理原礎、スウエチリン氏論理階梯、ウラジスラウレフ氏論理学、フランデルゼー氏單復記簿階梯、シロ

ツセル氏大万国史、ソロウイヨーフ氏大露西亞史、ガノー氏物理全科、フランボリー氏物理問題、クラエーウイチ

氏物理学、クラエーウイチ氏代数問題集、リョウエ氏初等代数、イワーノフ氏代数決題、ラランド氏對數表、ブツ

エーウイチ氏幾何問題集、モズゴーフ氏幾何決題、マリニン氏幾何階梯

授業内容の革新性

引用があまりに長くなってしまうが、旧外語露語科の授業内容を具体的に知ってもらうためにあえて、全文を掲げた。もちろんこれは今日のシラバスのようなものだから、必ずしもこの通りの授業がなされたとはいえないが、これらの科目をすべてロシア語で教授したのだから、生徒の負担は相当なものだったろう。しかも露日辞典はまだなかったので、露英、英和と二度引き、しかもその辞書の数も限られていたので、生徒は各々自分用の手書きの辞書を作成せねばならなかった。再び安藤の言葉を引こう。「自分などはレーフの大辞典中の露英語の訳語を対照して辞書を作り勉強した、故に生徒は斯る無益の事に時を費すを以て年数の割合には進歩はしなかったが、然し非常に苦心せしため皆語学は達者であった。」(同右)

この当時としてはかなりハイレベルなカリキュラムを見て気づく点を挙げておこう。まず綴字でもちいられたトルストイの以呂波とは、かの文豪がヤースナヤ・ポリャーナでの民衆教育のために編んだ童話集である。また訳文のテキストとなったウシンスキーはロシアにおける革新的な教育学者であるし、イロワイスキーやソロヴィヨフの歴史書は名著の誉れ高いものである。ミルリとはジョン・スチュアート・ミルのことであり一八六〇、七〇年代のロシアの教養人の愛読書である。さらに歴史の参考書となっているシロツセルの万国史は一八六〇年代の革命思想家チュルヌイシェフスキーが自分の思想を広めるために、検閲逃れの意味で訳出したものである。

この教科目は一八八〇—八一年(明治十三—十四)年のものであるから、八一年入学の二葉亭は間違いなくこうした科目を履修したはずである。つまり露語科の生徒たちは、当時のロシアのギムナジウムでは禁止されていたような革新的な授業を受けることになったわけである。それにしても、これほど高度のカリキュラムを作成したのはだれか——語科によって差はあるが、こと露語科にかんするかぎり、メーチニコフをはじめとするナロードニキ系の教師が

それに関与したとは、十分想像されるのである。これにすでに述べた文学の授業が加われば、生徒たちがどのような思想、信条の持ち主になるかは明らかだろう。政府主導の鹿鳴館外交とそれに対抗する自由民権運動の高まるなか、生徒たちはおのずと反政府的な思想傾向を抱くようになっていっても不思議ではない。そのためであろうか、露語科の卒業生の数は驚くほど少ない。卒業生のリストを挙げると、一八七九（明治十二）年―武藤精次郎、福田直彦、加藤雅雄、八〇年―斎藤安右衛門、小島泰次郎、千葉文爾、神戸應一、同年七月―下村克己、八一年二月―成瀬駒二郎、鈴木於菟平、小島倉太郎、八二年（前年十二月より二期制を廃止し、通年制に移行）―山村栄、亀高西正平、芥川昆孝、八三年―片岡旗郎、矢崎鎮四郎、八四年―安岡盛長、川上俊彦、鈴木要三郎、加藤寅三の二〇名にすぎない。つまり当時の生徒たちにとっては、卒業という肩書よりもロシア語の修得が目的だったということだ。一八七六（明治九）年入学の矢崎鎮四郎の談によると、最初五〇人程いた生徒が卒業時には一人になっていたというから、中途退学者の多さには驚かされる。二葉亭の入学した一八八一年には募集給費生二五名にたいし、二五〇名の応募があったという。

立身出世とは無縁な露語科

メーチニコフは当時の露語科の生徒が置かれていた状況をこう説明している。

ロシア語を修得してみても、日本人学生たちには、英語、仏語（部分的には独語科にもあてはまるが）の生徒のように、前途に明るい展望が開けていたわけではないということだ。英語、フランス語の場合には、首都ですすでに高度の大学の講義がおこなわれていた。またドイツ語には、医学校への門戸が開けている。ところがロシア語には、より高度の授業がおこなわれる見込みはまったくなかった。つまり立身出世とか生活の資を稼ぐという意味では、ロシア語の勉強はほとんど魅力

あるものではなかったということだ。

〔東京外国語学校の思い出〕、「回想の明治維新」付録)

旧外語の生徒名簿を見るかぎり、露語科には薩長出身者が皆無に近いということも、これと無関係ではないであろう。ちなみに第二期東京外国語学校で教鞭をとることになる教師で、旧外語を卒業したのは鈴木於菟平と小島泰次郎の二名だけであり、長谷川辰之助（二葉亭）も河津敬次郎（陸軍教授）も卒業はしていないのだ。つまり卒業という肩書よりも、ロシア語の実力が採用の基準とされたということだろう。そしてこうした知的風土のなかで学んでいたからこそ、一八八五（明治十八）年の東京商業学校との合併にさいし、多くの教員、生徒がそれに憤り、学校を去ったのであろう。

当時の外国語学校の学生は、士族出身者が過半数を占め、不平等条約のもとで日本の貿易が外国商人に独占されている現状にあきたらず、卒業後は公使や領事となって海外に雄飛しようという野心をもっており、絶えず議論をしていたから書生派と呼ばれていた。なかでもロシア語科には、当時のわが国の水準をはるかに抜くアメリカ国籍のロシア人教授グレイ（Gray）と個性豊かな日本人のロシア語教師、市川文吉らによって育てられた長谷川辰之助（二葉亭四迷）、平生飢三郎、藤村義苗、太田黒重五郎らの優秀な学生がいて外国語学校全体をリードしていた。矢野校長は彼らの才能を惜しんで説得につとめ、長谷川は新商業学校に再入学したが数か月で退校してしまった。

〔二橋大学百二十年史〕、一九九五年、二七ページ)

と細谷新治は書いている。